

「地域の核となる学校」をめざして

下関市立豊田中小学校

学校運営協議会について

①実施回数 年間4回（定期3回、臨時1回）開催

②主な協議内容

- ・学校経営方針について
- ・学力向上に向けた取組について
- ・秋季大運動会の午前開催について（臨時開催）
- ・学校関係者評価について

③CSコーディネーターの活動

学校運営協議会の司会進行、学校支援活動の連絡調整等



特色ある活動

◆地域の方による学校支援活動

○「丸付け先生」による全校朝学の支援

実践開始4年目。毎週火・木曜日の全校朝学の時間に、地域の学習支援ボランティア（通称「丸付け先生」）が来校し、国語と算数の学習プリントの採点やアドバイスをしています。（開始以来本年度2学期末現在で、229回開催、延べ1306人が支援）



朝学終了後は、コミュニティ・ルームで雑談タイム。この場は、学校支援にかかわる話題があがったり、地域の情報を得る場になったり、また学校支援の方々のコミュニケーションの場になったりと、地域連携の実質的な中核の場になっています。



◆学校開放による地域貢献活動

○「学校レストラン」による「見る・食べる・しゃべる」

学校開放

本年度初めて取り組んだ活動です。豊田中・殿居公民館と連携して来校者を募り、授業参観や会食（給食）、昼休みや掃除時間における子供たちとの交流を行いました。「本当に久しぶりの楽しい時間でした。授業も見学させていただき、参観日を思い出しました。」「久々に子供たちにふれあえて、とても新鮮でした。給食もおいしくて、子供たちのお行儀のよさにびっくりしました。」等の感想をいただき、「行ってみたい学校」「協力したい学校」「地域を元気にする学校」に近づくことができました。



来年度に向けて

今年度は、これまでの取組の充実と新たな取組の実践に着手し、より充実した「学校運営・学校支援・地域貢献」ができた実感しています。来年度は、「ふるさと豊田をより深く愛する心の育成」をめざし、今年度の取組の検証・改善を図りつつ「地域の核となる学校」づくりをめざしていきたいと考えています。

「地域とともにある学校」をめざして

下関市立西市小学校

学校運営協議会について

主な協議内容(年3回実施：5月 10月 2月)

- ・ 学校運営方針・学校運営状況等の説明・承認，C・S西市小スタイルの組織づくり・各プロジェクト推進に向けての協議
- ・ ユニット型校内研修，各プロジェクトの取組状況・学校の諸課題に対する取組状況について（学力向上・学校安全・心を育てる），綱紀保持についての協議
- ・ 学校評価書の検討，来年度の組織・学校運営協議会の在り方についての協議

特色ある活動

◆ 漢字検定の取組

実施日 令和2年1月31日（金）

参加者 62名（学校運営協議会委員，本校PTA，本校教員，検定受検者）

内容 学力向上プロジェクトの一つとして本校学校運営協議会の「学び部会」が漢字検定を主催しました。

目的は3つあり、一つ目は検定という具体的な目標を児童にもたせることで漢字を学ぶ意欲を高めること、二つ目は漢字検定の学習に向けて熟語や対義語、筆順等、多面的な漢字学習をすることで漢字に興味をもたせること、三つ目が保護者や地域にも学びの機会や場を提供することでした。

検定には受検料がかかることと自分に合った級を選んで受検することから、希望者のみの参加としました。また検定は全国一斉の日程で行われるため、金曜日と水曜日の時程を変更し、放課後行いました。中学校や地域にも呼びかけたところ、中学生や地域の方、保護者の参加もあり、小学生32名を含む46名の受検希望（45名受検）がありました。

児童の中には中学生に混じって中学生レベルの級を受検していたり親子で受検したりした子もいました。受験会場の運営に参加したPTAの方は、「検定を行っている教室の雰囲気はみんな真剣で、とてもよいと思いました。」と語っていました。今回、普段では体験することのない緊張感を味わうことができたことも収穫の一つでした。この体験を他の児童にも伝えて、学習意欲の向上と共に漢字に関心をもつ児童が増えることを期待しています。



各級ごとの検定の様子

来年度に向けて

運営は学校運営協議会（学び部会）で行い、サポートを学校の教員が行いました。来年度は、運営をすべて学校運営協議会で行えるよう委員さんやPTAの方に早くからお願ひしておくことと、児童への漢字学習に対する意識付けをさらに高めていくことに留意していきたいと思ひます。

「地域とともに伸びる学校」をめざして

下関市立豊田下小学校

学校運営協議会について

(1) 実施回数と主な協議内容

・計3回実施。本校は、5/29「地域と共にある特色ある学校」について確かな学力・豊かな心情・元気な体づくりでの協議をし、出た意見から今年度の方向性を共通理解、10/16「第1回協議会からの進捗状況」「学校評価アンケート（1学期）集計結果からの熟議」「全国学力学習状況調査の結果」「児童の健康・体力」「地域と共にある特色ある学校」について協議・意見交換、2/26は「第2回協議会からの進捗状況」「今年度の成果と来年度に向けた課題と手だて」を協議する予定である。

(2) コーディネーターの活動

・学校支援活動の計画・運営、ボランティア募集、連絡・調整を行っている。

主な活動

(1) 「ふるさとを愛する心」の育成に向けた取組

老人クラブ、婦人会、公民館・こども園、福祉施設等多くの団体や児童の保護者・祖父母に体験型授業の支援や参画をいただき交流を深める中で、感謝の気持ちや思いやりの心の育成を図っている。また、協育ネットが中心となって作った冬野菜を持走大会の昼食時の豚汁づくり（PTA主催・協育ネット参画）で活用したり、ボランティアさんとの顔合わせの会やお招き会でのボランティアや高齢者とのかかわりやお礼の手紙などが児童の創意ある企画や自己有用感・主体性を生み出したりという心の繋がりが見られ、ふるさとのよさを愛する心は諸活動に広がっている。

(2) 豊田中学校区での共通実践

学校区4校で、豊田っ子スタンダード・家庭学習週間の実施・あいさつがよい合う町6000人総あいさつプラン・時間厳守を共通実践事項として掲げた。これを受け、豊田下地区ネットワークすこやかグループ見守り隊・PTA・教職員・児童会によるあいさつ運動や、豊田下小スタンダード・家庭学習がんばる週間による学習習慣の徹底、朝学での視写タイムを実施し、自校での充実を図った。また、校長・教頭・教務主任会、小中合同綱紀保持研修会、中学校夏季休業中補習講座支援、小6中学校見学会・合同学習会、合同学力向上研修連絡協議会、新入生保護者説明会、学警連、合同引き渡し訓練等で小中4校の連携を図り、課題は学校運営協議会でも協議し、年度内の実践化を図っている。

(3) 地域の方の学校支援活動

① 学習支援

月1回の「しもっこクラブ」では、隣接の豊田下公民館で放課後の学習支援を行っている。館内の児童クラブと共同で講師を招聘した工作や体を使った運動なども仕組み、児童の視野や経験を広げ地域の中で児童を育てる連携が深化・充実している。また、月曜日の朝の学習支援や第1火曜日の「読み聞かせ」は、地域の方と温もりのある交流をしながら学ぶことができる貴重な時間となっている。また、JA豊田の食農指導による農園活動や町内の梨選果場やスーパーマーケットの見学、菊川町のそうめん工場見学などで校外学習や体験活動を計画的に行い、学習を充実させている。

② 環境支援・安全支援

豊田下地区まちづくり協議会が核となって発足した地域の見守り組織は、児童が安心・安全に過ごせる基盤となった。また、月1回のサンサンガーデンの草取りや・植栽等の環境整備は児童と地域や保護者の方々と取り組んでいる。

(4) 地域住民が学校に集まる仕掛け

① 参観日等における見守りボランティア

懇談会や教育講演会で在籍児童対象の託児を行い、保護者の参加率を上げている。

② 公民館と連携した情報公開

隣接の公民館と企画の情報公開の場を提供し合い、地域住民の来校率に繋げている。

成果と課題

諸活動での支援に、双方向・連鎖・波及といった質的向上が伺えることは取組の成果といえる。また、学校運営協議会での協議事項をすぐに企画や実践に反映させることにより、好循環を生んだ。学校HPや学校だより等で情報を積極的に発信し、協働意識や参画率を高めるとともに、有用性への理解を得ていきたい。また、下関市コミュニティ・スクールのテーマとの関連を踏まえて行事をさらに精選し、ねらいを明確にした取組を行っていくことが本校の課題である。

「学校を舞台に地域も学校も元気になれる取組」

下関市立豊田中学校

学校運営協議会について

委員は11名で年3回（4月、11月、2月）実施している。1回目は学校運営方針の承認、2回目は熟議、3回目は学校評価である。

特色ある活動

【熟議の実施】

実施日 令和元年11月8日（金）18:00～19:30

会場 下関市立豊田中学校 図書室

テーマ 「学校を舞台に地域も学校も元気になれる取組」について

参加者 豊田中学校運営協議会委員 12名、
生徒4名、下関市立大学生17名

概要 まず、現在取り組んでいる豊田中学校コミュニティ・スクールの活動についての概要説明を校長が行いテーマに沿った熟議を4つのグループに分かれて実施。「地域の力を中学校へ」と「中学校から地域へ/学校同士で」でアイデアを出し合った。1つのグループは、学校運営協議会委員3～4名、生徒1名、大学生4～5名の構成。

[参加者の感想]

- ・大学生は豊田町外に生活していて、そういう立場の人の意見は豊田町民としても参考になった。
- ・若い人の意見が聞けて良かった。
- ・すぐに取り組んでいけるようなアイデアがあり、これから楽しみだ。
- ・地域の方はやはり学校に来にくいのではないだろうか。保護者にしても気軽に学校を訪れる人は少ないと思うが、「“えん”の会」のように、使命という何かやることがあれば来てもらえるのではないだろうか。
- ・豊田町のことを町外の人に向けて発信できるようにしたい。
- ・市大生に来てもらっているが、今度は下関市立大学に行ってみたいと思った。
- ・地域の人に学校に来ていただく工夫を一生懸命考えていただいた。

来年度に向けて

来年度も同じテーマで熟議を行っていききたい。今回出たアイデアにできることから、柔軟に積極的に取り組みたい。その積み重ねが、学校の課題解決になると考える。

また、下関市立大学の学生の熟議への参加は、マンネリ化しがちな熟議を活性化させる効果があると考える。来年度も「学校を舞台に地域も学校も元気になれる取組み」について考え、実行していきたい。



↑ 熟議



↑ 豊田中学校コミュニティ・スクールの取り組みについて